

大鰐町簡易水道事業経営戦略

団 体 名 : 青森県 大鰐町

事 業 名 : 簡易水道事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 2 年度 ~ 令和 11 年度

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 給 水

供 用 開 始 年 月 日	昭 和 41 年 4 月 1 日	計 画 給 水 人 口	260	人
法 適 (全 部 ・ 財 務) ・ 非 適 の 区 分	非適用	現 在 給 水 人 口	127	人
		有 収 水 量 密 度	1.93	千 m ³ /ha

② 施 設

水 源	☐ 表流水 , ☐ ダム , ☐ 伏流水 , ☐ 地下水 , ☐ 受水 , ☒ その他 (複数選択可)				
施 設 数	浄水場設置数	1	管 路 延 長	6.127	千 m
	配水池設置数	1			
施 設 能 力	39	m ³ /日	施 設 利 用 率	88.27	%

③ 料 金

料 金 体 系 の 概 要 ・ 考 え 方	基本料金 3,300円(定額制)				
料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まない)	平 成 19 年 5 月 1 日				

④ 組 織

簡易水道事業は住民生活課生活環境係が他業務と兼務している。簡易水道事業として、歳入の調定業務、水質管理業務及び修繕等を含む施設管理業務を行っている。職員給与費は一般会計に依存している。(参考:生活環境係内訳 係長1名(課長補佐兼務 40歳代)、一般職員1名(20歳代)計2名)

(2) これまでの主な経営健全化の取組

特になし

(3) 経営比較分析表等を活用した現状分析

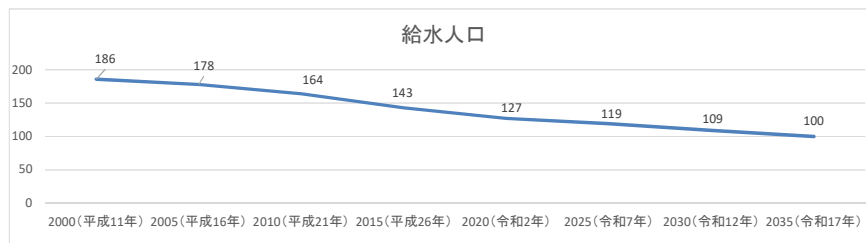
※ 直近の経営比較分析表(「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」(公営企業三課室長通知))による経営比較分析表を添付すること。

経営比較分析表のとおり

2. 将来の事業環境

(1) 給水人口の予測

行政区域内の住民基本台帳データを基に普及率等を加味して積算した。



(2) 水需要の予測

給水人口減少に伴い将来の有収水量は減少するものと予測する。今後給水地域の人口減少が進んだ場合には小規模水道への移行を想定している。

(3) 料金収入の見通し

給水人口の減少に伴い減収が見込まれる。

(4) 組織の見通し

担当職員の2名とも一般職であり、技術職は不在である。当町の上下水道は隣接した他市と2団体で水道企業団を経営しており、その給水エリアから当簡易水道事業給水地域は費用面の問題等が存在するため早急な統合は難しい状態である。現状において最少人数で業務を行っていることから現体制を維持する。

3. 経営の基本方針

現在の給水人口は127名であり、人口減少により給水人口も減少する見込みである。現時点で黒字収支であるが、昭和41年の事業開始から50年以上経過しており、これまで大規模な管路更新を行っていないため今後は各施設の修繕に経費を要する見込みである。料金収入の他に基金積立金等により財源を確保して順次修繕により対応する。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	大規模改修は行わず、毎年度の修繕により施設を維持していく。
-----	-------------------------------

主な投資計画はない。予算規模が小さすぎるため民間活用はメリットが少ないため対象外と考える。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	最大限の財源の確保
-----	-----------

・現在町の一般会計からの繰入れは行っておらず、今後も料金収入のみで経営を図る。
 ・資産として活用できるものはない。
 ・給水人口の減少による料金収入の減が見込まれるため、引き続き未収料金が発生しないよう現状の徴収体制を維持する。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

・水質検査等最小限の経費による維持管理を行うこととし、管路のスポット修繕等で修繕費の平準化を図る。
 ・人件費は引き続き一般会計において支出予定である。
 ・今後の収益的支出は平成30年度から直近3年間の最も収益的支出を要した令和元年度の歳出額と同額を見込んでいる。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 投資の合理化、費用の見直しについての検討状況等

広 域 化	導入予定なし
民間の資金・ノウハウ等の活用 (PPP/PFI 等 の 導 入 等)	導入予定なし
アセットマネジメントの充実 (施設・設備の長寿命化等 による投資の平準化)	導入予定なし
施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング)	導入予定なし
施設・設備の合理化 (スペックダウン)	導入予定なし
そ の 他 の 取 組	将来的に給水施設の交換を検討する必要がある。また、現行が定額制のため不均衡が生じやすいことから、各戸にメーターを設置することが望ましい。

② 財源についての検討状況等

料	金	持続可能な範囲内での料金体系の維持	
企	業	債	なし
繰	入	金	なし(現時点で予定していない)
資産の有効活用等(*2)による 収 入 増 加 の 取 組			なし
そ の 他 の 取 組			なし

5. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経 営 戦 略 の 事 後 検 証 、 改 定 等 に 関 する 事 項	今後は加入者減少による小規模水道への移行が想定されているため、現状維持が大前提である。小規模水道への移行が決定されるまでの間は事後検証及び改定等を適時行う予定である。
---	--

[illegible]

(単位:千円)

[illegible]